

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホーム とうごう苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧淵2636番地1 (電話) 0996-21-6551
自己評価作成日	平成30年10月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境と、木のぬくもりを感じられる建物の中で、開苑時からの理念である、「やさしい手に 温かい心を添えて 住み馴れた地域の中 明るい笑顔で 心のこもったふれあいと その人らしさを大切にします」を忘れることなく、入居者様が安心して笑顔で過ごされるよう支援しています。開苑後14年が経ち、地域のサロンをグループホームで開催したり、自治会大掃除へ参加するなど、地域の一員として自治会や地域住民との交流も定着してきております。また、夜間避難訓練への地域協力隊の方々の協力なども頂いています。入居者様は、認知症の進行や高齢化、重度化はありますが、それぞれの方のレベルに合わせた個別ケアを行いながら、ご家族やボランティアの方々の協力ももらい、花見や遠足といった戸外への外出も行っています。また、グループホームを終の棲家とされる方も増え、協力医療機関や専門医などの医療関係者と連携を取り、住み慣れた場所で、顔なじみのスタッフやご家族に囲まれながら、適切な医療を受け、最期まで、その方らしく過ごせる様、ターミナルケアにも取り組んでいます。スタッフは、更なる資格取得への取り組み、研修会参加などで、スキルアップに努め、入居者様の人権尊重と安心して笑顔で暮らして頂けるよう、質の高いケアを目指し、スタッフ一同協力しながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 菜園もあるが、地域や家族などから野菜などの差し入れも多い。お盆拭きや下ごしらえなど能力に応じた手伝いを、利用者からももらっている。職員は、ユニットごとに献立を作成しているが、夕食のメイン料理は、外注している。粃で保存された米はその都度精米して炊飯しているため、利用者にも喜ばれている。外食は、家族と楽しんだりソーメン流しは恒例行事になっている。年2回は、遠足に出かけて弁当を楽しむ機会がある。また、誕生日のリクエストメニューやケーキも1品添えられ利用者の楽しみになっている。食事形態を工夫し、食への興味を引き出し美味しく食事が摂れるよう視覚から入る情報も意識し調理や盛り付けを工夫している。
- 認知症高齢者にとって、質の高い睡眠が認知症介護にも大きく影響することから、利用者の中には、見守り装置「ねむりスキャン」を活用している方もいる。夜間帯などは、職員1名体制のため熟睡度を感知したり、覚醒から動きだしの短時間に職員がいち早く対応できるようにしている。さらに、転倒のリスクが高い方は人感センサーを併用しているが、定例の運営推進会議時に、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催し、関係者間で話し合い、その結果について、介護職員やその他従業者にも周知徹底を図っている。法改正もあり、指針を整備している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を朝夕、申し送り時に唱和することで、理念に沿ったケアを意識しながら共有し、実践に努めている。	理念とは別に法人のモットーとともに職員が意見を出し合い作られたホーム独自のモットーがあり、申し送り時に唱和され職員に浸透している。理念は、パンフレットに掲載、玄関に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会の掃除やサロンへの入居者様の参加、中高生の職場体験、実習受け入れなど、交流を図るように努めている。	年2回、地域交流サロン活動を展開、地域の方々がホームに訪れ利用者と交流したり、敬老会などの行事にボランティアを受け入れている。また、中高生の職場体験の受け入れ、地域の清掃活動や炊き出し訓練に積極的に参加するなど地域交流を意識した活動を実践している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	避難訓練や行事の参加時に地域住民やボランティアの方々に認知症の人への理解や支援方法を説明したり、また、認知症の方への接し方などのついて、お話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催し、入居者様の状況や運営、活動、実績報告をし、助言や協力を頂き、グループホームへの理解を深めてもらっている。	今年度の法改正を受けて、「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」の開催を機会あるごとに職員と話し合っている。また、看取り介護の報告、夜間総合避難訓練報告などを行いサービスの質の向上に向けて活発な意見交換がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂いている。ボランティア依頼など、日頃から密に連携し、協力をもっている。	市職員とは、電話や面談などで相談したり、指導や助言をいただくなどして連携を図っている。研修会の案内もあり参加したり、市や包括などの協力要請に対応するなど柔軟に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を設置参加し、定期的にホーム内研修を実施し、事例検討をするなどして、スタッフ全員で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議の中で開催している。研修は、年7回実施、ねむりスキャン、人感センサーの活用もあるが、適正化委員会で検証し話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置参加し、定期的に研修を実施し、実際の事例検討を行い、虐待になっていないか、スピーチロックなどを行っていないか、スタッフ同士注意しながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修に参加し、必要と思われる入居者様には、個々に関係者と協力し、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約等の際は、入居者様や御家族の不安や問題点を確認しながら、納得を得た上で、契約されるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の状況報告を兼ねて、苑便りを作成し、また面会時、「何かご要望はないですか？」等、職員からご家族へ問いかけ、気兼ねなく何でも言ってもらえるような関係作りに努めている。	家族会や面談などで直接、意見や要望などを聞き取ることが多く、職員は、申し送り時や連絡ノートを活用している。出された意見などは、スタッフ会議やミーティングなどで話し合われケアに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案を聞く機会を持ち、出された意見は管理者、スタッフ全員で検討し、反映されている。	職員の休憩時間を工夫したり、業務分担について見直しするなど職場環境を整備、ユニット間の職員交代や職員の親睦を図るための工夫がされている。人事考課システムがあり、目標達成に向けて日々実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人ひとりの仕事に対する思いや希望、日々の努力や成果を把握し、働きやすい職場環境に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、スタッフが平等に研修に参加できるよう、研修を計画実施し、研修参加の希望を聞き、資格取得を推進して、受験費用の補助など職員を育てる支援を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、事業者がグループホーム連絡協議会に加入し、研修会や交流会に参加できるように支援している。多くのスタッフが情報交換、ネットワーク作りに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にし、申し込み時や入居時に、ご本人に面会したり、見学に来ていただいたりして、不安に思っている事、要望などを聞きながら、安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に現在のご本人の様子、ご家族の状況、不安な事、要望などを聞き、ホームでの生活や支援できること、ご家族に協力して頂く事などを説明し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	気兼ねや遠慮されない様、笑顔で話を聞き、まず必要とされている支援を見極め、他サービスを含めた総合的な支援ができないか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、共に生活し、支え合うという事を、常に意識し、暮らしを共にする者同士と言う関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、入居者様とご家族様の絆が途切れない様に、入居者様の状況を報告している。入居者様の対応に困った時などは、御家族に相談し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やボランティアの協力をもらいながら地域のサロンに参加されたり、慣れ親しんだ場所へ出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援している。	携帯電話で家族と連絡を取り家族の絆を深めたり、外食や墓参り、外泊を楽しまれる方がおられる。職員は、公園や神社、散歩がてら買い物に行ったり、地域サロンに外出するなど関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士がいつでも会話できる環境を作り、コミュニケーションが取りにくい入居者様も、スタッフが関わり、社会性を保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族が訪問して下さったり、苑外で会った時など、挨拶を交わし、必要に応じて、相談に乗るなど、これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしている。意思疎通の難しい方には、ご家族から情報をもらったり、担当者会議で検討するなどして、出来る限り希望に添える様努めている。	利用者の言葉も大切にしているが、表情の変化やしぐさ、家族の情報や担当の職員の意見を参考にするなどして本人の思いを汲み取り、本人本位に検討している。職員は、利用者との人間関係を良好に保てるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や入居時に、ご本人やご家族のこれまでの生活歴やサービスの利用の経緯を伺い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの生活リズムの把握や、毎日の暮らしの中での心身状況や能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が安心して暮らせるよう、ご本人やご家族、ケアマネ、スタッフ、主治医でそれぞれの意見を反映して、アセスメントやモニタリングを行い、ご本人が望む暮らしに、少しでも近づけるよう介護計画を作成している。	本人の思いを把握し、自立した生活の実現や本人の生きがいにつながる支援、役割を持ち主体的に取り組めるよう本人、家族、担当者が担当者会議などで話し合っている。遠方の家族には、電話で介護計画について説明し、面会時に再度同意をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に、食事量や排泄状況、バイタルや日常の変化や気づきなどを記入し、連絡ノートを活用するなどして、スタッフ間で情報を共有し、入居者様のちょっとした言葉などをヒントにケアや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて、急な外出や通院介助など柔軟に対応し、ご本人やご家族の希望に添うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らせるよう地域のスーパーや訪問美容、民生委員やボランティア、緊急避難時の消防局や地域協力者など、地域資源と協働し支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医の定期往診の他、急な体調不良時も、すぐに往診してもらったり、病院受診するよう手配するなど、安心して適切な医療が受けられている。	介護職と兼務の看護職が配置されており、医療との連携が図られている。訪問診療や往診、他科受診により適切な医療が受けられる体制がある。他科受診時は、「医療連携に係る連絡表」による情報提供し、受診は家族の協力をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日常の関わりの中で、些細な体調変化を見逃さない様、早期発見に努めている。変化に気づいたときは、協力医療機関の看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、スタッフ（管理者、ケアマネ）が付き添い、入院に至るまでの状況を医療機関に報告するなど、情報交換を行っている。入院中も面会に行き、安心して治療ができ、医療機関の相談室等とも連携を取りながら、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについての説明をし、アンケートを頂いている。看取りについての指針を作成し、重度化や終末期に近い場合は、状態が変化する度に、事業所、ご家族、主治医で、今後の対応について話し合い、ご家族が望まれる対応ができる様チームで支援している。	契約時に、「看取りのアンケート」を実施、文書にて意志確認しているが、看取り終了時にも家族向けのアンケート調査を実施し、今後の取り組みなどの参考にしている。職員は、カンファレンスで看取りを振り返り今後のケアに活かしている。主治医は看取り介護に熱心に取り組まれる方で、利用者、家族も入所当初から看取りを希望されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、応急手当や蘇生法の研修を行ったり、その時に慌てない様シュミレーションしておくなどの準備をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練の実施や防災教育、災害時対応の研修を行っている。年一回の夜間避難訓練には、消防局や地域支援協力者の方々にも参加して頂き、入居者様が安全に避難できるよう体制を整えている。</p>	<p>年2回、ユニットごとに火災想定で避難訓練を実施、1回は実際に夜間に訓練を実施している。また、消防署は推進会議に年3回程度参加し、指導や助言をしている。万が一の時は、法人の老人ホームが避難場所になっており、水やインスタント食品の保存食のほか、米は粳で備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりを持った声掛けや、誇りやプライバシーを損ねない対応ができる様、研修会に参加するなどして勉強している。	法人と合同の研修会への参加があり、外部講師を依頼するなどして知識を研鑽しスキルアップを図っている。職員の言葉使いや声かけが丁寧で声のトーンなどにも気遣いが感じられる。職員は、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた声掛けを行い「はい。」「いいえ。」で、答えられ、自己決定しやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先するのではなく、ご本人の気持ちや意思を優先し、一人ひとりのペースに合わせて入浴や食事も、その日の体調や気分に合わせて楽しく過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に髪をカットされたり、一人ひとりの生活習慣や好みに合わせ、外出時や行事の時には、おしゃれを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や昔懐かしい物、好んで召し上がっていた物、行事食など食事が楽しみになる様工夫している。また、手伝いができる方には、野菜の下ごしらえなどを手伝って頂いている。	ユニットごとに献立が異なるが、調理担当者がその日の食材を見て作成している。菜園や差し入れなどの旬の野菜をふんだんに取り入れ食事形態を工夫し、食への関心や興味が引き出せるよう食事を提供している。誕生日のリクエストメニュー、ソーメン流しなど外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や好み、食事形態など、習慣、病歴などを考え、とろみをつけたり工夫しながら栄養が摂れるようにし、栄養状態が悪い方には、高カロリーペース等をお出しするなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声掛けや介助を行い、口腔ケアが習慣となる様支援している。また、入れ歯調整など訪問診療を受け対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導や声掛けを行い、立位困難な方は、職員二人で介助するなどして可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	百歳を超える超高齢の方もおられるが、布下着に改善している。ポータブルトイレは、プライバシーに配慮し臭いがしないよう環境整備している。排泄のリズムを把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食べ物、水分を摂っていただくよう、また、適度の運動の声掛けや便秘薬の服用など、一人ひとりに合わせた便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの入浴の希望に合わせて、スタッフと会話を楽しみながら、ゆっくり入浴して頂いている。入浴拒否がある方には、タイミングを見て、その時々々の個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回程度午前中に入浴していただくよう支援しているが、本人の希望や必要性に応じて柔軟に取り組んでいる。入浴できない日は、足浴や清拭にて保清し気持ちよく過ごしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、落ち着かれる場所を作り、好きな時に休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、スタッフ全員が薬の目的、副作用、用法や用量等を理解している。また、薬の変更時には、口頭、連絡帳に記載して確認し、服薬時は必ず二人で確認してから与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を生かせる様に入居者様の希望を聞きながら、毎日行事を計画し気分転換できるよう支援している。また、毎日レクリエーションやラジオ体操、貯筋体操をし、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑庭の散歩、花見、遠足、ソーメン流し等、ご家族やボランティアの協力をもらいながら、出かけられるよう支援している。	行事などは、広報誌にてお知らせし、家族への参加を呼び掛けている。苑内を散歩したり、近所の道の駅まで散歩がてら買い物に行ったりしている。季節ごとの花見や遠足、マラソンの応援など外出のスケジュールや家族、ボランティアの協力を調整しながら外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、自己管理されている方はいないが、外出や買い物など、一人ひとりの希望に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人、ご家族が自由に電話したり、手紙のやり取りができる様支援している。また、入居者様で、携帯電話を所有されている方もいらっしゃる、ご家族と会話されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや観葉植物を置き、生活感を出し、空調や温度などにも注意し、居心地よく過ごして頂いている。	玄関には靴が履けるよう長椅子が置いてあり、落ち着いたある雰囲気や調度品や装飾が訪れる方を和ませている。建物全体が和の雰囲気で木のぬくもりがあり、手作りの作品が掲示され季節感を与えている。畳スペースには掘こたつがありのんびり過ごせるよう工夫されている。観葉植物が多く、中庭には洗濯物が干してある。天井が高く採光があり清潔感にあふれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファや、和室の堀こたつ等を利用して頂き、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、使い慣れた家具や寝具、家族の写真など、自由に置かれ好みの部屋にされ、ご本人が居心地よく安全に過ごされるよう工夫している。</p>	<p>これまでの生活環境を変えることがないように使い慣れた物や馴染みの品をなるべく持ち込んでいただくよう支援している。利用者は、テレビや家族写真、寝具などありそれぞれ居心地よく過ごしている。造りつけ棚は衣類が整理整頓され見える収納になっている。サッシに誤ってぶつかることがないようにシールが貼付してある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、転倒防止できるように物の配置に配慮して、安全でかつ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない